

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970800336
法人名	社会福祉法人明徳会
事業所名	テングーヒル御所わかば館 グループホームきつとうど
所在地	御所市御国通り364-1 (電話) 0745-64-2500

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成21年3月17日

## 【情報提供票より】(21年 3月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 15.2人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての、2階～階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	49,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

## (4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.1歳	最低	71歳	最高	96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	勝山診療所
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、近鉄御所駅から続く商店街に隣接する旧市街地にあります。ホームを取り巻くように民家が続き、道行く人が気軽に立ち寄れる、地域の支援センターの2階が生活の場となっています。入居者の多くが地元の人であり、昔から馴染んだ家並みや桜堤を目前にしなが、それぞれの力を活用して、スタッフと一緒に日々の生活を楽しまれています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議では、調理方法の変更などの意見をケアの改善に反映することや、介護計画では本人・家族の意向を反映して計画を作成したり、緊急時対応可能な協力医を背景に終末期の入居者の受け入れに取り組みられています。なお、災害時の備蓄については、ひきつづき検討課題とされていますので、速やかな対応を期待いたします。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価の意義をよく理解されており、職員も自己評価に参加し、改善への契機とされています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	施設の運営状況、前回会議で提起された課題のその後の取り組み経過、外部評価の取り組みや結果についても報告されています。また、活発な意見交換で提起された課題をサービスの改善に活かされています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の面会が多く、職員は、その機会を捉え、要望や意見を気軽に言ってもらえる関係作りをされています。意見や要望をカンファレンスや日々の申し送りに反映して改善に取り組みられています。なお、家族会はありませんが、家族どうして、意見を交換したり共有して、より積極的にホームの運営に関わっていただく機会をつくられては如何でしょうか。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会行事、小学校との定期的な交流などへの参加が続けられています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は、スタッフみんなで練り上げた、「その人らしさ」を尊重する平易な表現の理念を作られています。	○	今後、「地域」という視点が加わることを検討されていますので、地域で生活されている入居者として広くとらえた理念作りが期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、常に目に触れるよう連絡用掲示板に掲示されています。また、日常的に会議等で確認し合い共有し、実践されています。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事、小学校との定期的な交流などへの参加を続けられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をよく理解されており、職員も自己評価に参加されています。外部評価の改善課題についても、スタッフ全員で検討し常に改善の姿勢で取り組まれています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター・行政の職員等、幅広い立場の人の参加の下、定期的開催し、施設の運営状況、前回会議で提起された課題のその後の取り組み経過、外部評価の取り組みや結果についても報告されています。また、活発な意見交換で提起された課題をサービスの改善に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が頻繁に市役所に出向き、情報交換を密にされています。また、認知症と認知症の人への正しい理解を広めるための「認知症サポーター養成講座」や「介護講習」の講師として、市の要請に応えられています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、入居者の暮らしぶりを報告するとともに、情報交換の機会をもたれています。利用料などの請求の際にも、入居者の写真を同封し個別の状況を報告されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、職員は、その機会を捉え、要望や意見を気軽に言ってもらえる関係作りをされています。意見や要望をカンファレンスや日々の申し送りに反映して改善に取り組まれています。	○	家族会はありませんが、家族どうして、意見を交換したり共有して、より積極的にホームの運営に関わっていただく機会をつくられては如何でしょうか。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際には、入居者への影響を最小限にとどめるため、勤続年数の短い人の人数を制限するなど工夫されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用の場合は、各ローテーションに合わせてトレーナーをつけ、着実に育成できるようにされています。また、外部研修を受講する等、研修の機会が確保されています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は具体化されていませんが、県の認知症研修がその機会となっています。	○	限られた勤務体制の下では、大変かと思いますが、周辺にあるグループホームとの共同の研修会や交流の取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	それぞれの入居者の状況に合わせ、短期の宿泊を繰り返しながらの入居や、スタッフが入居者の自宅を訪問して、ホームに持って行く家具と一緒に運び運んでレイアウトしたり、入居後1~2ヶ月は、家族に頻りに訪問してもらいなど徐々に馴染めるよう取り組みをされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、調理方法や野菜のことや歴史のことなどを教えてもらったり、人生の先輩として、入居者から学ぶという関係が形成されています。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を聞き取る他、各入居者の特徴や言葉にならない気持ちの把握方法(態度、表情など)の情報交換、申し送りを活用して思いや意向を把握し、関係者間で話し合い、本人本位に検討する等工夫されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎年1回、本人・家族の意向を聞き取り、生活目標を設定されています。また、かかりつけ医との情報交換を密にし、カンファレンスや日々の記録などの情報や意見を持ち寄って介護計画を立てられています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を定めた定期的な見直しの他に、入居者の状態変化が生じた場合や、毎月のカンファレンス、毎日の介護記録などを基に、本人や家族及び関係者間で話し合い、その時々に応じて介護計画を見直しされています。	○	介護目標は、家族に示される「ケアプラン」には、含めてありませんが、家族の目に分かる形で、示されるよう検討されては如何でしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、散髪その他、前居住地の敬老会や同窓会への参加など個別の希望に合わせて送迎する等柔軟に対応されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本に、入居者の意向に沿って受診できるよう支援されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての方針を作成されています。医師、看護師、家族と連携を密にして、本人、家族の意向に沿って支援できるよう職員間で話し合われています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などの個人情報は、スタッフルーム内に管理保管されています。また、入居者への言葉かけは、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、個別に対応されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な全体の流れはあるものの、入居者のその日の体調や気分に合わせて、個々のペースで生活できるよう支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、野菜の下ごしらえや盛り付け、下膳などそれぞれの身体能力状況に合わせて参加されています。また、摂食状態に合わせてキザミやおかゆなどの形態に工夫されています。スタッフは、交代で食卓を囲み、同じものを食べながら食事が楽しくなるよう支援されています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者一人ひとりのその日の気分や体調に合わせる他、夜間入浴にも対応する等入浴を楽しんでもらえるよう工夫されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、調理の下ごしらえ(野菜の皮むき、豆の筋とりなど)や下膳等スタッフと協働しそれぞれの力を発揮できるよう支援されています。	○	入居者の力を発揮しながら、楽しみごと、気晴らしの機会をさらに広げていかれることを期待します。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフが対応可能な人数の範囲で、散歩などに取り組みられています。	○	入居者が、個々の身体状況に合わせて、建物から出て、気軽に外気に触れたり、戸外のものや音に接する機会が持てるような工夫を期待いたします。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、安全確保のために施錠されますが、日中は、しっかりした見守りがなされ、玄関は常に開錠されています。なお、状態が不安定・重度な方のユニットの出入り口は常時ロックされています。	○	安全への配慮から施錠されていますが、入居者の自由な暮らしを支えるため、「鍵をかけないケア」の実現を強く期待いたします。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署との定期的な防火訓練と防火計画の策定や直通電話が設置され、周辺住民の方や地域の消防団からの協力も得られるよう働きかけをされています。	○	備蓄に関しては、前年の改善課題でもありますので、速やかな対応を期待いたします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、毎回把握し、職員が情報を共有されています。また、日常お茶を用意し、自由に水分補給ができるようにされているユニットもあります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンが隣接したリビングは、桜堤に面して、戸外の風景を眼にすることが出来ます。キッチンで手伝ったり、ダイニングで下ごしらえをしたり、また、食材の匂いや調理の音等生活感を大切に心地よく感じられるよう建物構造の設えを工夫されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、のれん、カーペット、ベッドやタンス、ソファ、机、冷蔵庫などのほか、本人が大切にされている飾り物などが置かれ、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫されています。		